

Case Study



Retty

社名: Retty株式会社

住所: 〒108-0073

東京都港区三田1-4-1

住友不動産麻布十番ビル3F

URL: <https://retty.me/>

<https://corp.retty.me/>

「食を通じて世界中の人々をHappy に」することをミッションに2010年に創業、おすすめによって人々を幸せにすることを目指した“実名型”グルメサービス「Retty」を運営。

エンジニアリング部門担当執行役員

VP of Engineering

あなご担当

小迫 明弘氏

自前主義から脱却で“運用レス”を実現 画像生成、配信の自動化でユーザーエクスペリエンスの最適化を可能にした イメージオプティマイザー

実名口コミグルメサービス「Retty」を運営しているRetty株式会社では、ユーザーからのリクエストに応じて最適な画像を提供するべく、Webサイト上にアップロードされた画像を最適な形で動的に生成、配信することが可能なイメージオプティマイザーを活用。Fastly の導入により運用負担を軽減しながら、ユーザーエクスペリエンスの最適化を実現している。

自前で構築していた画像配信に関する運用負担が増大

Retty株式会社が運営する、ユーザーの実名に基づく数百万件もの口コミが集まる“実名型”グルメサービス「Retty」は、画一的なランキングとは一味違う、信頼できる友人や好みに合う口コミから自分にぴったりの飲食店を見つけ出せるサービスだ。現在は月間で4,800万人以上が利用するサービスにまで成長しており、同サービスに登録された店舗数は70万店に達するなど、全国の飲食店をほぼ網羅するフードデータプラットフォームとして多くのユーザーから支持されている。

そんな同サイトが扱う口コミ関連の画像は、当初はユーザーからのアップロード時に複数の大きさにリサイズしたうえで AWS 上の S3 に保存し、リクエストに応じて画像を使い分けていた。その後、ビジネスの拡大に応じて最適なユーザーエクスペリエンスを提供す

るべく、画像表示のリクエスト時に画像を自動的にリサイズし、最適な形で配信する仕組みを自前で構築。AWS 上に展開する40台ほどのインスタンス上で配信を続けてきたが、サービス利用者数や口コミ数の増加に伴って画像を配信するトラフィック量が急増し、サーバーの CPU 負荷がほぼ100%の状態に運用せざるを得ない状況が続いていた。「結果として画像表示の遅延を招いてしまい、うまく画像を返すことができないケースも多発していました。少数精鋭で運用していることもあり、その都度の対応に運用負担が大きくなり、サーバーリソースを拡充するにも費用面で難しい部分も。そこで、現状の課題解消につながる、最適なユーザーエクスペリエンスが維持できる環境を模索したのです」と小迫氏は当時を振り返る。

既存パスをそのまま流用、スムーズな移行に貢献する VCL が大きな魅力に

もともと自前主義でサービス基盤を整備してきた同社だが、数年前から外部サービスを柔軟に活用する機運が高まっていたことも幸いした。そこで、運用負担軽減につながるよう、ユーザーエクスペリ

エンスを損なうことなく快適に画像配信できる外部のサービスを検討することに。そして複数の画像配信の仕組みを検討するなかで目を付けたのが、Fastly が提供する画像をリアルタイムに変換、最適

化するイメージオプティマイザーだった。「CDN 的な機能は自社で実装していることもあり、解決策としてすぐに CDN サービスが思いつきました。当初は AWS の CDN機能である Amazon CloudFront も検討したものの、最適な画像フォーマットに変換するといった機能は持ち合わせておらず、我々の求めているものではなかった。その点、イメージオプティマイザーは我々がイメージしたものでした」。

特に大きかったのは、Fastly 提供の設定言語である VCL (Varnish Configuration Language) によって、画像表示のための既存パスを変更することなく移行できる点だった。「自分たちでパス変更することも検討しましたが、数千万枚にも及ぶ画像に関連したパスを漏れなく網羅できるかどうか十分な確証が得られませんでした。VCL のおかげで既存パスを変更せずに移行できるだけでなく、何か課題があっても VCL があれば力技で何とか打開できると考えました」と小迫氏。スキルの高いエンジニアが数多く在籍している会社だけに、自分たちで解決できる手段となる VCL を高く評価したのだ。

また、高速にキャッシュクリアできるインスタントページ機能が あることも評価の1つだった。有料のお店会員が運用する店舗ペー



ジで情報変更が発生した場合、迅速に内容更新できるような仕組みを自前で構築しているが、店舗ページだけでなくまとめページなどにも情報が分散しており、運用的な負担も少なくなかったという。

「負担なく迅速にキャッシュクリアするためにも、サービスを利用すべきという議論も以前から出ていました。内部的にコンセンサスが得られれば、便利に活用できると考えました」と小迫氏。

結果として、Fastly のイメージオプティマイザーが同社の画像生成および配信の基盤として採用されることになった。

運用レスながら、画像生成、配信の自動化によって最適なユーザーエクスペリエンスを作り出す

現在は、ユーザーのリクエストに応じてイメージオプティマイザー側で同サイトで管理されている数千枚にも及ぶ画像のクリップ、リサイズを行ったうえで配信するというシンプルな運用で、ほぼすべての投稿写真の最適化をイメージオプティマイザーが可能にしている。「導入してから2年以上経過していますが、今ではほとんど触ることなく運用レスの状態でも最適な画像配信が可能になっています」と小迫氏は評価する。以前は配信がうまくいかないことでエンジニアが現場に張り付かざるを得ない場面も見受けられたが、大きく運用負担が軽減できたことで、その時間を別の作業に振り分けることができているという。

運用負担の軽減もさることながら、配信に関する設定を VCL にて行うことで、Git 上で管理できる点もメリットとして挙げている。「設定まわりは記録しづらく、管理そのものができていないことで

属人化しがちです。設定情報を VCL によってコード化できることは今の時流にもマッチしていますし、誰にでも扱えるようになったのは大きなメリットです」と小迫氏。

既存の環境に依存せずに画像配信が最適化できるようになり、画像数など制約なく新たなアプリケーション開発が可能になっただけでなく、サイト運営の基盤となる各種システムの OSアップデートやバージョンアップ時にも、画像配信の領域を意識せずに実施できる点も効果の1つに挙げている。また、導入段階では Fastly からリリース前の API を用いて事前にテストできる環境が提供されただけでなく、コロナ禍における環境変化にも柔軟に対応するなど、ユーザーに寄り添った Fastly のサポートについても高く評価している。

新たな機能も活用しながら、コンテンツ全体への CDN 適用も検討を進める

現状は、リクエストに応じた画像生成、配信がイメージオプティマイザーによって最適化されているが、豊富な機能を持つイメージオプティマイザーの機能をフルに生かしていない面もあるため、自社の運用に役立つ機能があれば活用することも視野に入れている。「画像合成など我々のサービスにも役立つような機能をうまく取り組んでいきたいと考えています。また、将来的にはビデオストリーミングなどリッチなコンテンツを扱う可能性もあるため、その

際にも Fastly のソリューションをうまく活用していきたい」と小迫氏は期待を寄せている。また、画像配信のみならず、将来的にはコンテンツ全体の効率的な配信が可能な Fastly のエッジクラウドプラットフォームについても期待を寄せているという。「限られたリソースで効率的に運用するためにも、これまで以上に CDN を有効活用していければと考えています」と今後について語った。

お問い合わせ

Fastlyに関するお問い合わせはこちら

 japan@fastly.com

 <https://www.fastly.jp>

 @FastlyJapan

